

## 「杉並区基本構想」団体意見一覧

	団体名	代表者	テーマ	要旨（原文のまま掲載）	部会
1	まちづくりに夢をつなぐ市民の会	西田 穰	<b>(防災)まちづくり</b>	<p>1. そう遠くない将来、首都直下型の震災が起こり得るとすれば、杉並区の市街地や幹線道路の実情は、防災の面からは極めて脆弱であることを危惧する。</p> <p>2. これまでも様々な計画の中で、ハード面の改造が描かれてはきたが、住民の理解や協力を得ることが難しいことから、手付かずの状態で放置されている。</p> <p>3. 東日本大震災の教訓も踏まえ、今回の「新たな基本構想」の中で、改めて防災まちづくりの実現可能な具体的プランを示して欲しい。</p>	1
2	まちづくりに夢をつなぐ市民の会	西田 穰	<b>地域エネルギービジョンの策定</b>	<p>原子力に頼らない社会への変貌、地方の犠牲の上に成り立つ都市生活への反省、そしてエネルギーは使いたいだけ供給されるという神話の終焉、今般の東日本大震災に伴う原発事故は、私たちに様々な教訓を与え、価値観の転換を迫る契機となった。この時期に策定される「新たな基本構想」には、杉並版エネルギービジョンとも称すべき内容を盛り込むべきと思う。すぐに達成することは難しいにしても、将来的なエネルギーの地産地消の方向付けを基本構想の中に明確に位置付けて欲しい。</p>	1
3	みどりの善福寺川を愛でる会	鈴木 富雄	<b>区環境のシンボルとしてムサシトミヨを復活させる</b>	<p>ムサシトミヨはわが国で始めて故中西悟堂氏が善福寺池で発見したと報告している。ムサシトミヨは水草に巣を作り、子育てをするというめずらしい魚である。ムサシトミヨ飼育のためには水温が低く、清浄でなければならない。善福寺下の池には地下水供給ポイントがあり、小さな池状になっているところがある。ここを整備してムサシトミヨの復活をはかりたい。</p>	1
4	NPO法人 杉並環境カウンセラー協議会	鈴木 富雄	<b>善福寺川を浄化し、 区のシンボルとして水辺事業を実現する。</b>	<p>善福寺川流域の下水道を再整備し、水質改善をはかる。公共水域の汚染防止のために建設された下水道によって、都内河川が汚染され、死の川となっている。最上流である善福寺川の汚染を防止し、これを神田川、隅田川、東京湾等の汚染防止へと広げ、東京の水環境改善を図りたい。隅田川流域整備計画策定が進んでおり、これと連動して汚染防止対策事業を実施する。斉美公園の上流部分の河川改修には多自然型工法とし親水可能、川に近づけるようにする。</p>	1
5	NPO法人 杉並環境カウンセラー協議会	鈴木 富雄	<b>善福寺公園にホタルを復活し区民に潤いを与える事業</b>	<p>善福寺公園には上池と下池があり、その間を水路でつないでいる。水路は約100メートルあり、大部分は開水路である。この水路を整備すればホタルが自生できる環境となろう。以前、この水路の一部を杉並区が都から借り受け、ホタルの飼育をしていたが、湧水が枯れ、ホタルの自生が出来なくなり、現在に至っている。現在は池に地下水が供給され、水路の流れも確保しやすい状態にある。この水路を整備し、ホタルを自生させ、環境整備のシンボルとしたい。</p>	1

	団体名	代表者	テーマ	要旨（原文のまま掲載）	部会
6	杉並区動植物調査プロジェクト	田中 耕太郎	<b>杉並のまちづくりのあり方</b>	先延ばしにされている自然環境調査を平成24年度には再開して下さい。また、その調査結果を杉並のまちづくりに反映することを基本構想の理念に盛り込んでください。また、自然環境調査の結果を、以下のように活用することを求めます。 ・区内に残る貴重な動植物及びその生息地の保全・拡充 ・区政の様々な施策や行政サービス（公園管理など）への反映	1
7	柏の宮公園自然の会	梶山 伸夫	<b>杉並のまちづくりのあり方 （快適な環境都市・杉並のあるべき姿）</b>	「自然環境の保全による自然との共存」は21世紀の日本にとっても重要な課題です。生物多様性地域戦略の一環として、専門家の指導による定期的な自然環境調査に基づく「杉並区水とみどり（生態系を含む）のネットワーク構築」を基本構想の理念に盛り込み、特に「みどりの質の向上」に重点をおいて、杉並のまちづくりに反映させて下さい。	1
8	スマイルハート	松浦 明子	<b>快適な環境都市・杉並のあるべき姿</b>	区内の自転車に関連する環境の改善のお願い： i) 駐輪場整備 ii) 商店街の空き店舗を買い物客用に区からの助成で駐輪スペースに出来るようにする iii) 放置自転車のリサイクル・システム（空き店舗と空家をリサイクル自転車のレンタル・スポットにする等して、区内での交通手段と出来るようにし、買い物やその他お出かけの際には、レンタル自転車を活用出来るシステムを作る（その他公的交通機関と合わせて利用し、これ以上自家用の交通手段を増やさないようにし、温暖化防止にも一役！空家・空店舗の活用で防犯にも一役！） iv) 自転車マナー教室を定期的に各世代に実施する	1
9	杉並・地域エネルギー協議会	寺田 加代子	<b>エネルギーを大切に使う低炭素社会の実現</b>	これからの社会はこれまでのようなエネルギーの大量消費は許されないことを先ず確認しなければならない。そのことを前提に、温暖化の進行を止めるために、区独自のエネルギー政策を持ち、環境計画と連動しながら、脱原発でかつ低炭素な社会を実現する。環境・エネルギー政策の推進にあたっては、中長期の数値目標を示した地域行動計画を策定し、その達成をめざして実働を担う推進組織と計画の進行管理を行う組織を市民参加でつくる。	1
10	すぎなみを楽しく歩く会	熊木 透	<b>杉並区の産業振興</b>	昨年東京23区では人口増加した区が多い中、杉並は人口減少区となった。緑化も重視しているし、その他の面でもいろいろ環境にも配慮し、地域住民の活性化にも前向きな区であるが、今後は都心にも近い好立地と54万人の人口を生かした特色ある産業振興も区が起爆剤となって振興することが大事だと思います。具体的には有数のアニメの集積地でもあり、音楽も劇場なども既に盛んなその資源を集約した産業振興を図って欲しい。	1

	団体名	代表者	テーマ	要旨（原文のまま掲載）	部会
11	杉並を耕す会	奥山 たえこ	<b>自然エネルギーの利用促進</b>	電力の供給元を東京電力のみに頼るのではなく、再生可能なエネルギー利用を増やすために、区立施設において太陽光発電利用を促進する。	1
12	杉並を耕す会	奥山 たえこ	<b>エネルギーを一部自給する</b>	杉並区処理場で一般廃棄物（生ゴミ・紙くず・剪定枝・廃プラ）などを税金で燃やす場合、その排熱を有効利用する。ただ燃やすばかりでは、おカネをドブに捨てるようなもの。	1
13	杉並を耕す会	奥山 たえこ	<b>屋上菜園普及</b>	杉並区は農地が少ない。ビル・マンションの屋上で菜園を行う。元気な老人の憩いの場にもなる。生ゴミ処理でできた堆肥の捨て場にもなります。	1
14	杉並を耕す会	奥山 たえこ	<b>避難場所のさらなる確保</b>	災害時の避難場所のみならず、仮設住宅の建設用地確保のためにも、土地の確保につとめて欲しい。	1
15	杉並を耕す会	奥山 たえこ	<b>住宅密集地域の防災計画の実行</b>	区内の火災に弱い地域の防災度を高めてほしい。	1

	団体名	代表者	テーマ	要旨（原文のまま掲載）	部会
16	オレンジグループ	矢島 直子	<b>放射能</b>	東日本大震災による福島第1原発の事故による放射能について、大変な時に入りました。	1
17	玉川上水・すぎなみの会	國井 喜章	<b>道路・公園・緑地、駅周辺まちづくりなどのあり方</b>	「公園・緑地」を整備することについては、緑地を新たに創出するより、今、残されている自然を守ることを優先して欲しい。住宅街に残る私有地である雑木林、農地は、景観的にも環境的にも周辺住民への恩恵が高い。緑地を新たに造成するより、地元住民の私有地への助成や税制的な援助、管理に予算を使っていただきたい。また、防災機能としても、住宅街に緑地帯を万遍なく確保することも希望したい。	1
18	杉並病をなくす市民連絡会	高野 尤子	<b>「快適な環境都市・杉並のあるべき姿」および『健康に暮らし続けるための支援』</b>	1996年4月に操業開始した不燃ごみ圧縮施設杉並中継所から排出された化学物質により、地域に広がった覆雑で不可解な健康被害は2009年4月の操業停止以後もおさまっていません。杉並区は光化学スモッグでも知られ、ぜんそく患者も決してすくなくありません。住民の健康被害がおこったとき、駿小化あるいは隠蔽するのではなく、問題の根源的な解決への姿勢をもつ杉並区であるべきです。	1
19	杉並大気汚染測定連絡会	塩澤 幸子	<b>まちづくり・産業・環境</b>	1 大気汚染の測定点と項目を増やして欲しい。 2 道路の緑化と自転車道の整備により、車排気ガスを減少させる。 区民の生命を守る事を最重要構想とし、特に有害物質による健康被害を無くすことに重点をおいて、公害先進区より退却して環境先進区になる様、区の方向にして下さい。	1
20	神田川ネットワーク	糸井 守	<b>河川環境整備</b>	杉並区内を流れる神田川、善福寺川は、杉並区の最も重要な自然環境というだけでなく、東京の中心部を流れているので東京および日本の貴重な自然環境であり、自然資源として快適な都市づくりのために整備し、活用して行く必要がある。河川整備とその活用については、河川の水質浄化促進と景観・触れ合い空間の創造および生物多様性再生への環境整備を優先的・積極的に推進して欲しい。推進に当たっては、市民参画を積極的に進めて欲しい。	1

	団体名	代表者	テーマ	要旨（原文のまま掲載）	部会
21	東京商工会議所杉並支部	宇田川 紀通	<b>杉並区全体のまちづくり</b>	1 まちづくり公社の創設 2 水辺・緑の保全 3 安心・安全なまちづくり（防災・防犯） 4 環状交通網（エイトライナー）の整備促進 5 南北道路の整備促進	1
22	東京商工会議所杉並支部	宇田川 紀通	<b>荻窪のまちづくり</b>	1、JR中央線の高架化及び青梅街道のバイパス化について 2、駅周辺の商業施設集積について ○若杉小跡地について	1
23	自然愛護会杉並	佐藤康子	<b>「環境保全」（都立善福寺公園の整備）</b>	都立善福寺公園は、昭和5年、内田秀五郎氏と地元民の努力で善福寺風致地区の指定を受けた中心域にあります。「公園」の魅力は、かつて東京都の三代湧水地の一つだった善福寺池（上池）と、かつては田んぼと湿地からなる現在の下池地域を合わせた風致公園です。当時の自然は「日本野鳥の会」の創設者、中西悟堂氏が「東京にあるのが嘘のような自然」でした。しかし、現在は池と高木はありますが風致公園とは名ばかりの、どこにでもある市街地の普通の公園になりつつあります。そこで、「公園」にかつての自然を一部に取り戻したい、というのが「公園」でボランティア活動をしている本会の願いです。	1
24	杉並女性団体連絡会	遠藤 淑子	<b>「快適な環境都市・杉並のあるべき姿」</b>	太陽光発電だけでなく、太陽熱温水器など、省エネルギー住宅の推進を進める必要が有ります。	1
25	杉並女性団体連絡会	遠藤 淑子	<b>「快適な環境都市・杉並の有るべき姿」</b>	東京電力下高井戸グラウンドを災害時避難場、高齢者の介護施設等に利用する取組を急ぐ必要が有ります。	1

	団体名	代表者	テーマ	要旨（原文のまま掲載）	部会
26	桃園川遊水池探検隊	島尻 茂樹	<b>道路、公園・緑地、駅周辺まちづくり などのありかた</b>	杉並区のまちづくり計画は都市環境のモデル地区であるべきです。武蔵野土着の生物多様性を守り、未来に育てる為の転換期です。街づくりには二つの意味があり、人間的な環境と自然の環境が同居しています。それらの基本は生物の多様性を文化に取り入れたまちづくりにあると思います。港区でもなく日の出村でもない住宅街杉並！その特徴は桃園川と実生の森林、継続可能な自然環境により人間の街は生き返り活力を取還す。人間の街は甦り熊が還る？！熊は無理でも目標は大きく、人間はもう一度自然を開発して、狸や野鳥ぐらゐは還ってくれば、人の児も健康に育つだろう。観光の相乗効果で経済も活性化して街は国際化する。区民の力により自主的な環境活動に芽生えコミュニケーションが可能となるでしょう。	1
27	永福町商店街振興組合	永福町夢プロジェクト幹事 中島 安次	<b>『永福町夢プロジェクト』 ～アートで彩られた支え合いまちづくり～</b>	『永福町夢プロジェクト』（まちづくり）組織の活動に行政の「地域への広報、場づくり、先駆的資金の支援」をお願いしたい。 1 永福町商店街振興組合、北口商和会、地元小学校学校支援本部、永福学園を中心に、地元企業（京王電鉄・ジェイコム等）、自治会、商工会議所、まちづくりに関心のあるNPO等が集まり、『永福町夢プロジェクト』という組織を立ち上げた。 平成22年1月 永福町夢プロジェクト設立 2 主旨、目的 永福町地域を「元気で楽しいまちにする」こと。 3 『永福町夢プロジェクト』の具体策 1) 第一段階 まちづくりの一環として、日常的、非常時、災害時の支え合いネットワーク事務局機能の設立 2) 第二段階 区立永福南小学校跡に出来る介護老人保健施設（推定）に「アートと、支え合いネットワーク」も活動機能に加える	1
28	自治市民' 93杉並	表現部会 海老名 剛	<b>防犯カメラの設置</b>	杉並区ではすでに「杉並区防犯カメラの設置及び利用に関する条例」（*）ならびに「施行規則」により既に多数のカメラが設置され、基本構想の方向によっては更に増設の恐れもある。 しかし、プライバシー保護・肖像権侵害防止の面から以下の3点を要望する。 ①防犯カメラ設置の抑制 ②防犯カメラの運用・保持責任とチェックの明確化と透明化 ③区の責任の明確化	1
29	自治市民' 93杉並	環境部会 塩沢 幸子	<b>道路、公園・緑地、駅周辺まちづくりなどのあり方</b>	外郭環状道路（以下、外環道とする）建設は、①社会経済情勢・②環境破壊・③景観破壊・④防災など様々な面でマイナスが多く、建設を中止すべきである。 市民の声を無視し、「国策」に異議を唱える研究者をはずし、司法も行政に従属し、超莫大な国家予算をつぎ込んだ原発。まさに「人災」そのものの事故を「想定外」として責任を取らない。 北海道のトンネル内で列車事故があった。地上の、入り口200メートルであるの惨事である。地下40メートル、10キロメートル余の外環道での惨事は？ 工費は1メートル1億円と聞く。	1
30	杉並みずみち調査会	有住 和子	<small>あんきよ</small> <b>暗渠</b>	杉並区に残存する暗渠は何の役にたつのかという視点に答えを見いだす。 教育見地にたつて、地元の暗渠に光をあてたい。	1

	団体名	代表者	テーマ	要旨（原文のまま掲載）	部会
31	杉並みずみち調査会	有住 和子	<b>掘り抜き井戸</b>	1. テーマ暗渠について にひきつづくテーマは、2. テーマ 掘り抜き井戸についてである。先の大河原善雄さんに高円寺北一丁目にある掘り抜き井戸をのぞいて、地下水調査を行なう際に協力いただいた。現在、掘り抜き井戸はあるのか？	1
32	有限会社ケアプランニング 結い杉並	綿平 孝子	<b>道路、公園・緑地、駅周辺 まちづくりなどのあり方</b>	車イスでも安全に利用出来る道路を整備して欲しい。	1
33	公園づくり紙上会議	小川 修	<b>健康に暮らし続けるための支援と 防災力の向上</b>	原発事故で放射性物質は現在も放出・拡散し、食品を通じて微量なりとも確実に摂取され続けます。国の方針・基準に従っていても、自治体は住民を守ることができません。区は独自に、放射能に対する啓発を行うとともに、区民参加により放射能測定強化をすべきです。それは防災力の向上にもつながります。	1
34	外環道検討委員会	古川 英夫	<b>外環道（外環本線）</b>	今の審議会での主な意見の整理を見ると、現在の基本構想の「水辺とみどりの豊かな杉並」というコンセプトは今後も重要な要素になると記されている。杉並の素晴らしさは「水と緑」なのだ。しかし世界一巨大な大深度地下トンネル構造の外環は、トンネル掘削で圧を持った周辺の地下水が大気圧状態のトンネルを目指し集中的に集まってしまい、池や川は涸れてしまうのだ。「トンネルを掘ると水が抜けてしまう」という事は昔から言われて来た事だ。審議会では真剣にこの事を論じ、次世代に杉並の“宝物”の「水と緑」を残してあげるべきだ。	1
35	外環道検討委員会	古川 英夫	<b>外環の2（地上部街路）</b>	外環の2計画は、外環本線が地下化されたために、その存在根拠を失っている。成熟した住宅街の真ん中を、杉並でも緑豊かな地域を、多くの文教施設の中を、40mもの道路幅で通るこの計画は、子どもたち、老人たちの安全を脅かし、日常の行動範囲を制約するものであり、騒音、振動、大気汚染により健康被害を生むものである。まちづくりの基本構想を立案するにあたり、既に存在根拠のない外環の2計画を前提として検討することがないよう、強く要望する。	1

	団体名	代表者	テーマ	要旨（原文のまま掲載）	部会
36	さくら町会	植田 芳子	<b>外環の2（地上部街路）</b>	私達の町会・・・さくら町会は80余年の歴史を持つ、纏まりの良い落ち着いた佇まいの町会である。ところが外環の2が通るため、町会内200戸の内80戸が立退き対象になっており町会の約半分が消滅してしまうのだ。幅40mの巨大地上道路は周辺地域を分断してしまうのだ。地下方式にするから立ち退きは無しと説明しながら進めるのは騙し討ちである。この道路でクルマの生活道路への流入、大気汚染の拡大、善福寺池や川、地下水への影響も見逃せない。第1部会で「住宅都市としての今後のあり方」として大いに審議戴きたい。これが本当の都市計画だろうか？	1
37	すぎなみ若竹会	石川 有子 文責：高橋真知子	<b>「保健・福祉・医療：住み慣れた地域で支え合い、自立した生活をおくるための支援」 「老障介護支援」</b>	高齢の親が、中高年になった障害のある子どもの世話をし続けるケースが増えています。区役所の中でも高齢者と障害者では担当部署が違い両方同時に支援することが難しい状態です。老障介護の実態を把握し、ケアホームの増設、見守りネットワーク、リバースモーゲージ等老障介護支援システムの確立をお願いします。	2
38	すぎなみ若竹会	石川 有子 文責：高橋真知子	<b>「保健・福祉・医療：住み慣れた地域で支え合い、自立した生活をおくるための支援」 「災害時における障害者の段階的支援」</b>	障害者には、災害発生直後の支援と発生から時間が経過した場合の段階的支援が必要です。次の段階別避難支援計画の策定をお願いします。 ① 災害発生直後 ② 避難所生活 ③ 避難が長期化した場合	2
39	特定非営利活動法人 おでかけサービス杉並	樋口 蓉子	<b>移動自由な社会の実現</b>	人口予測からも明らかなように、杉並区では今後高齢者は確実に増え続け、後期高齢者、高齢者のみの世帯、一人暮らし高齢者も増大していく。この方たちは身体の衰えから移動困難者となることが多く、今後の移動サービスの需要は高まることは明らかであり、その対策が確実に必要となる。杉並区は移動サービスについては30年以上の歴史を持ち、現在では多様な形態の民間事業者のサービスも集積し、先進的な施策をとる自治体として注目されている。今後も全国の特に都市部の移動サービスの牽引的な存在としてあることを望む。	2
40	杉並を耕す会	奥山 たえこ	<b>介護福祉当事者の権利擁護</b>	区内の福祉施設は増加し、運営主体や施設内容が多様になり、利用者やその家族の状況も一人ひとり異なっている。利用者側とサービス提供側の関係性を尊重しながら、各施設での福祉サービスの質を向上させ、利用者の要望をより反映させていけるようにするためには、特に入所施設の利用者の要望・苦情などを聴き取り、施設に伝えて改善を促す市民オンブズ制の導入を計る必要がある。	2



	団体名	代表者	テーマ	要旨（原文のまま掲載）	部会
41	杉並を耕す会	奥山 たえこ	<b>在宅介護支援体制の充実</b>	地域包括支援センターは在宅要介護者に対するきめ細かな要望を把握し、各専門家や地域ボランティアなどと連携したチームケアの提供に積極的に取り組める運営体制に拡充すべきである。	2
42	杉並を耕す会	奥山 たえこ	<b>「安心して老人が死ねる杉並区」</b>	「元気なまま死ぬ」ことを希望しております。いわゆるPPK（ピンピンコロリ）です。しかも孤独ではなく、少数でも友人に囲まれて逝きたいと希望しております。	2
43	さくら会（介護予防グループ）	河西 ますみ	<b>住み慣れた地域で支え合う</b>	区の財政悪化から、介護予防グループの活動が停止するのではないかと危惧しています。	2
44	福祉フォーラムすぎなみ	岡本 波津子	<b>高齢者福祉</b>	介護保険制度は、厚労省の度重なる手直しによりサービス受給条件が次第に厳しくなっています。このために、高齢者は残存能力を維持しつつ地域で暮らし続けることが困難となり、家族が介護のために離職せざるを得ないなど、社会的・経済的にも不合理な状況を生むばかりです。杉並区は、介護保険制度の後退・欠落を補い、高齢者が地域で暮らし続けられるよう区独自の施策を拡充し、一方で新たな施策を編み出して、先駆的な福社区となるべきです。	2
45	杉並女性団体連絡会	遠藤 淑子	<b>「住み慣れた地域で支え合い、自立した生活を送るための支援」</b>	近所の知り合いや商店に囲まれて過ごせるように、小規模のホームが一中学校区に一つずつ有ると良いのにと念願しています。現在、急務と思われることは、特別養護老人ホームの増設と、緊急ショートステイの増設です。	2

	団体名	代表者	テーマ	要旨（原文のまま掲載）	部会
46	杉並消費者の会	寺田 かつ子	健康に暮らし続けるための支援	①安全な環境は健康の必須条件。なかでも成長期の子供にとっては大気汚染や放射能などは重大な障害をもたらすもので、細心の調査と区民への情報提供が必要である。 ②保健所・衛生試験所は食品の安全について、また食品表示についても怠りなく調査・指導してほしい。事故の発生に際しては、区民に対し迅速な周知徹底をはかってほしい。	2
47	杉並冒険遊びの会	鎌田 あつ子	「世代を超えた社会参加と交流のための支援、すべての子どもへの切れ目のない成長・学びの支援、及び地域の子育て力・教育力・文化力の創造とつながり（交流）」	・身近な地域での外遊びの場の確保するために「杉並冒険遊び場」の常設設置の提案 ・「杉並冒険遊び場」を常設設置した場合の運営を円滑に行い、遊びの中で子どもたちへの継続的かつ恒常的に関わりを持つための「プレーリーダー」の常勤配置の提案	3
48	NPO法人 すぎなみ子育て広場 c h o u c h o u	小俣 陽子	子育てについて	「地域子育て支援拠点事業」（26年度：24か所）をその地域毎の「子育て」の拠点となる様、設置される事を期待する。その上で、すべての子育て家庭のニーズと社会資源をつなぐ場として、地域に既存している子ども、子育てに関するあらゆる社会資源を整え、より機能的に動く様、体制を再構築する必要がある。サービス提供だけではなく、当事者が動く、当事者主体の「子育て」が展開される様、地域全体で支援体制を組むべきである。	3
49	杉並区体育指導委員の会	飯島 典子	地域スポーツ活動の支援 （人と人とのつながり）	誰もが気軽に楽しめる生涯を通じたスポーツの振興のために、（総合型）地域スポーツクラブを設立し、支援をしていきたい。誰もがスポーツ・運動を楽しめる場や環境を整えることで、スポーツ・運動の実施率を上げていく。杉並区内にある大学と連携して、大学が持つ人材、施設を活用したクラブを設立し地域スポーツの活性化を図る。そのために体指の活用を。	3
50	杉並・図書館を考える会	小林 牧子	「教育・子育て・文化」	図書館は生涯学習の拠点です。子どもたちは本を通じて自分で考え自分で判断する力を身につけ、子育て中の親たちは図書館で子どもに絵本を選び、必要な情報を調べ、他の親たちと交流することができます。また、図書館はその地域の「文化のバロメータ」とも言われ、住民たちの文化と知的生活を支える重要な社会施設です。「住民基本構想」の中でも、図書館の充実と活用が「教育・子育て・文化」の一つの柱として取り上げられるべきと考えます。	3

	団体名	代表者	テーマ	要旨（原文のまま掲載）	部会
51	杉並区体育指導委員の会	飯島 典子	<b>すべての子どもへの切れ目のない成長・学びの支援</b>	子どもの体力・運動能力の低下傾向が続いている。また、2極化が見られる。このままでは、体力低下から生活習慣病を引き起こし、社会全体の活力低下になりかねない。学校での取り組みも必要ですが、地域ができる取り組みもあると思います。子どもに運動の楽しさをわかってもらうのと共に、保護者が一緒に運動して子供の体力向上を目指す意識を持ってもらいたい。地域の人たちと共に安心して遊べる場所も考えたいです。	3
52	杉並の市民活動と社会教育を記録する会	林 美紀子	<b>記録の刊行と社会教育の充実</b>	杉並区内には、終戦まもなく多様な市民活動と社会教育活動が展開されてきた。私たちは、これらの貴重な活動を記録し、残そうと実際に活動を荷った人たちに記録記載を依頼し、10年の歳月をかけて11冊の冊子を車座委員会の協力の下に刊行してきた。ただいまそれらは内部資料にとどまっている。より広く、より多くの人たちに活用されることが大切と考え、表題『杉並の市民活動と社会教育のあゆみ』の1冊を記録を集大成したものとして刊行しようとしている。東日本大震災のあった今、大人の教育＝社会教育の充実もはからなければならない。	3
53	杉並エコ・スクール研究会	林 昭男	<b>教育</b>	杉並区基本構想を策定するに当たり、ESD (Education for Sustainable Development) 「持続可能な発展のための教育」の理念を基本に捉えることを提言します。ESDは、2002年のヨハネスブルグ・サミットで日本のNGOと政府が提案し、国連で決議された「ESDの10年」に示されている行動理念です。「持続可能な社会をつくる」という目標に向けて、環境、経済、人権などの社会的な課題を繋ぎ、問題解決に導く理念と方法です。	3
54	杉並女性団体連絡会	遠藤 淑子	<b>「地域の子育て力・教育力・文化力の創造とつながり」</b>	「男女平等推進センター ゆうすぎ」の図書室がもっと活用されるために、公共図書館とのネットワークを実親する必要があります。	3
55	杉並消費者の会	寺田 かつ子	<b>子どもから成人に及ぶ消費者教育の必要性</b>	義務教育課程から成人対象の社会教育まで、消費者としての義務及び権利についての学習の機会を増やす。行政機関のみならず、多様な民間団体も消費者団体の出前講座も必要である。	3

	団体名	代表者	テーマ	要旨（原文のまま掲載）	部会
56	アートスクール帆 <sup>はん</sup> の会	菅野 充造	杉並区立美術館	○杉並区の文化を担う美術館の建設を要望します。 ○美術館は区民の憩の象徴としての役割を充分果すものと確信します。	3
57	子育て応援団	赤山 寿美	子どもの権利を保障するしくみ	子どもの権利が保障されるための条例を杉並区として制定すべきであり、基本構想に明記していただきたい。	3
58	子育て応援団	赤山 寿美	教育・子育て・文化	私たちは、杉並のまちづくりの基本を、人間どうしが支えあい、人間がそれをとりまく自然環境とのよい関係を保っていく社会づくり「持続可能な社会づくり」として掲げ、その実現へ向けて、自ら見、自ら疑い、自ら考え、自ら行動する力をつけるための教育「持続可能な社会づくりのための教育 (Education for Sustainable Development)」を進めることを、教育の柱としたいと考えます。	3
59	杉並女性団体連絡会	遠藤 淑子	「健康に暮らしつつづけるための支援」および「杉並らしい産業と経済活性化のあり方」	働く女性・男性の就労条件の適正化は、暮らし＝生活と、産業・経済活性化の基本条件です。同一価値労働同一賃金を実現する取組みが必要です。	1・2
60	自治市民'93杉並	福祉部会 高野 ゆう子	住宅都市・杉並の防災力の向上	①集中豪雨対策、水位警報機などについて再点検をしてほしい。 ②災害発生時の帰宅困難者の子どもたちを保護する体制をつくる。 ③原発事故による水・食品の汚染、土壌・屋外プールなどの汚染については、迅速な放射線量測定と周知活動が必要。 ④水不足に備えて、全区の井戸の所在と使用可能性を点検する。 ⑤乳幼児・要介護高齢者・障害者など災害弱者の把握と支援仕組みづくり。 ⑥東京港から陸揚げされ都内を走っている核燃料車についての対策が必要。	1・2

	団体名	代表者	テーマ	要旨（原文のまま掲載）	部会
61	杉並消費者グループ連絡会 会こすもすグループ	金田 禊子		1 静かな住環境を整備して欲しい。 2 公園の手入れをきちんとして欲しい。 3 阿佐谷北地域に集会施設を作ってください。 4 「放射能」測定を複数ヶ所で長期間行ってください。 5 杉並産の野菜を学校給食に。	1・3
62	オレンジグループ	矢島 直子	食生活	健康な暮らしには食生活が基本。子供達には食事が大事。	2・3
63	杉並女性団体連絡会	遠藤 淑子	「世代を超えた社会参加と交流のための支援」および「住み慣れた地域で支え合い、自立した生活を送る為の支援」	女性が働きつづける為の支援が必要です。そのために、杉並区男女平等推進区民懇談会の格上げと本腰を入れた取組が必要です。少子高齢社会を越えるにあたり、内閣府男女共同参画局は女性の社会参加・就労参加が欠かせないとしています。杉並区が基本構想を考える時にも最も重要な視点です。	2・3
64	杉並自主パトロール隊 ホークアイ	内藤 哲也	①まちづくり ②産業 ③防災力の向上 ④保健・福祉・医療 ⑤教育・子育て・文化	生きて行くのに本当は全然困っていない、自分のお金はあるけれど使いたくない、ただ居場所や役職が欲しいし命令しただけの暇な区民とそういう区民とグルになってやったフリがしたい方々の意見を聞いて、いろいろな事を一時的に盛り上げるだけの政策をやり過ぎていると思います。地域活動を続けながら、いろいろな所で見たり、聞いたりした中では、結局、文句を言わない区民、区の職員の方々が終わりのない後始末を延々と続けさせられている政策が、山積みされ続けているように感じています。今一度、基礎自治体、議会は何ができるのかを明確に示し、何でもできるようなフリは辞めて、自立した国民の育成に注力すべきです。	全
65	杉並区生活クラブ運動グループ 地域協議会	鹿取 愛弓	健康に暮らし続けるための支援	○食事が健康面にとどまらず、世界の経済や環境にも関わる大事なものであることを伝えるために「食育」を充実させて欲しい。 ○放射能汚染に関して区の方針を確立させて住民の暮らしを守って欲しい。	全

	団体名	代表者	テーマ	要旨（原文のまま掲載）	部会
66	杉並女性団体連絡会	遠藤 淑子	「道路・公園・緑地、駅周辺まちづくりなどのあり方」「すべての子どもへの切れ目のない成長・学びの支援」「地域の子育て力・教育力・文化力の創造とつながり（交流）」	働き続けるためには保育所の増設、充足と男女平等推進のための拠点の充実・整備が必要です。また保育所や拠点施設、介護施設は通勤・通学に便利な駅の近くに設置し、毎日通う人がいることで、商店街も施設利用者も共に繁盛することが期待できます。街づくりのデザインにはこの観点が必要と考えます。	全
67	まちづくりに夢をつなぐ市民の会	西田 穰	（市民参加の）まちづくり	杉並区における市民参加の実態を検証することを望む。数多く実施されてきた市民参加のまちづくりプランや事業は、その結果についての検証や総括が行われることなく、有耶無耶のまま放置されたり、消滅したりしている。またいわゆる“協働事業”にしても、行政と市民の間で、その概念や内容を共有化できていないのが実態である。 新たな基本構想の策定に当たっては、極力市民参加や協働の概念を明確に表現するとともに、望ましいプロセスや、総括の実施及び結果の公表についての基準を明記されるよう希望する。	調整
68	特定非営利活動法人生涯学習 知の市庭	東島 信明	これからの社会教育の展開～ すぎなみおとな塾、すぎなみ地域大学を事例に考える	1 区民は、座学から社会との接点を見つけ活動を通し学ぶ方向に志向が変化している。 2 代表的な事例として、「すぎなみ地域大学」「すぎなみ大人塾」とがある。 3 開講以来、「自分のまちを自分たちでつくる、自律する区民を発掘してきた」と評価できる。双方の講座事業が体系的で分かり易いものにする為に2講座を差別化する時期に来ている。 4 商店街活性化、地域区民センター、学校支援本部等、「新しい公共」を具体化する活動領域があり、講座を通して地域の担い手に育ててほしいと願う地域では、新しい人材確保や多様な課題解決に模索、頭を悩ませている。そこで、 5 杉並全体の「住民力アップ」につながる仕組みづくりの為に双方の機能を分ける。 6 人材発掘・育成した講座卒業生と、「新しい公共」を具現化する地域の活動現場とがスムーズにつながるよう、地域振興部門と教育委員会、卒業生が、協議・調整・講座企画運営に関与する。	調整
69	NPO法人ナレッジソーシャル協会	古川 洋一	空き家・空室の有効活用推進プロジェクト構想	大人塾（杉並区教育委員会主催）で空き家・空室のワークショップ、意見交換会、セミナーなどを通して分かった事は、参加者の関心が非常に高く各自がそれぞれ夢（思い）を持っていらっしゃることでした。そこで、埋没した資源の一つとして注目できるものが、廃校・空き家・空室・空き店舗等の有効活用です。しかし、実践して行くには、活用したい方や空き家のオーナーの思いだけではなかなか実現できません。それぞれの思いをどうしたら実現できるかを一緒に考え、支援して行く必要があります。	調整
70	特定非営利活動法人おでかけサービス杉並	樋口 蓉子	「新しい公共」を生かす「協働」の仕組みづくり	2009年の鳩山前首相の所信表明で発表されて以来、民主党政権の下「新しい公共」なる概念がこれからの社会のあり方として提唱されるようになった。しかし、この考え方は目新しいものではなく、むしろ「新しい公共」をどうつくっていくのか、それをNPO・市民活動団体と行政との「協働」でいかに推進していくかが課題であり、現在の杉並の問題であると認識している。「協働」の仕組みづくりを、新基本構想の一つの柱と捉えていただきたい。（協働は様々な場面で行われるが、ここではNPO・市民活動団体と行政との「協働」の側面から申し上げる）	調整

	団体名	代表者	テーマ	要旨（原文のまま掲載）	部会
71	特定非営利活動法人 おでかけサービス杉並	樋口 蓉子	<b>小さな自治の単位で、地域コミュニティの形成を</b>	これまでの中央集権の時代から、今や分権・地域主権の時代になりつつある。それは国と地方との関係だけでなく、杉並区という一自治体の中でも言えることで、そこに住み暮らす人たちが主体となってまちづくりをすることが求められている。自分達のまちは自分達でつくる＝「自治」を推進していくためには、その単位はできるだけ人が見え、関係性が持てる範囲が望ましいと考える。自治体内分権の推進を提案したい。	調整
72	特定非営利活動法人 おでかけサービス杉並	樋口 蓉子	<b>地域資源を活用して、交流と情報の拠点 “ほっとスペース”をつくる</b>	私たちは、比較的元気な高齢者の集いの場であるゆうゆう館の運営を区から受託している。その活動の中から、これからは身近な地域に誰もが利用できる様々な“居場所”がもっと必要になるのではないかと考える。併せて、その実現のための支援を制度化することを望む。	調整